

6 月度挨拶文

5.23.2020

畠山友利

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか？

コロナ感染のため自宅で自粛生活が始まり 2 か月以上が経ち、少しピークを越えたような兆しも感じられますが、まだ先の見えない毎日です。

この中で感染されお亡くなりになった方々に心よりお悔やみ申し上げます。

校成会日本全国の会員さんでも 8 名の方がお亡くなりになったと伺います。

また、この間も危険を顧みず取り組んでこられている医療関係の皆様、行政諸機関、私たちの生活を支えて下さっている様々なサービスのおかげで家での安全な暮らしが出来ていますことを心より感謝申し上げます。

これまでの人生でこれほど長く自粛生活をしたことはなく、しかも世界中の人々が同じ体験をしているかと思うととても不思議な気がします。後世の歴史にはどのように記述されるのか、その中に自分も居合わせたという事は誠に事実です。

最近はこの生活にも慣れてきて様々な思いに駆られます。「朝が来て、また夜が来る」という一日一日の流れの速さに驚かされます。一日 24 時間は誰にとっても平等です。その 24 時間をこれまではあまり意識せずに来ましたが、今はいつも自分の目の前にあるような気がします。これまでは人と人との出会いの中でスケジュールをこなし、時間が過ぎていきましたが今はそれを生かすも殺すもすべて自分の責任によってしなければなりません。

与えられた 24 時間をどれだけ有意義に過ごすか、その積み重ねが一か月、半年と経るわけですから、あの時は何だったんだろうではなくあの時にあれもした、これも出来た、こんな気付きがあった、あの時間はとても大切だったと思えるような毎日にしたいと思います。

この時期毎週 ZOOM での研修をさせていただき、法華経を学ぶ機会はとてもありがたいことです。私は事前の準備にクラシック音楽を聴きながら、読書をし、思索にふけり、釈尊のこころ、開祖さま、会長先生の信仰に少しでも触れさせていただきたいと念じながらこれまでは出来えなかった学びをたくさんいただいております。

研修中、皆様の気付き、体験を聞かせていただき、時に思わぬ質問もありとこれが本当のサンガでの学び合いなのだと毎回の実感です。

英語での研修も ZOOM で NY の杉野恭一さんが毎週「法華経」の学習・法座を組み英語会員さんと共に進めて下さっています。また最近では NY に在住の松原正樹先生が RKINA のアドバイザーとなりました。松原先生はブラウン大学での講師を務め、臨済宗・妙心寺派のご住職でもあります。昨年の佼成新聞にも毎月特集で連載を組んで下さいました。また御祖父さまは有名な松原泰道先生で、これからいろいろな機会に英・日での仏教講義を頂けるものと思います。

この自粛生活の中で、これまでにない体験と気付きをたくさん得て心の成長が図れますよう貴重な時間を大切に「悠々として、心安らかに」お過ごしください。

合掌